

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
また、ご家族・ご関係の皆様、本日は誠におめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

新型コロナウイルスの収束には今しばらくの時間が必要であり、まだ制限が残る状況ではありますが、ここ数年とは大きく異なり、新入生の皆さん、またご家族の皆様と一堂に会して入学式を挙げる事ができますことを本当に嬉しく存じます。

さて、神戸女学院大学は1875年、アメリカから来日したイライザ・タルカット、ジュリア・ダッドレーという二人の女性宣教師によって創立されました。ちなみに、このお二人が神戸に来られたのは、その2年前の1873年3月末でした。今からちょうど150年前です。その頃の日本は、江戸時代から明治になり開国して間もない時期でした。

日本にやってこられたタルカット先生たちは、早速アメリカに報告の手紙を書いておられます。手紙には、初めて見る神戸が風光明媚で美しいことに加えて、「街で出会う少女たちの多くはたいへん魅力的に見え、私は彼女たちと、話し合えるようになりたいと切に願っております。…また福音の光を知らぬ土地に光を与えるために何かをなしえようという望みのゆえに、深い感謝を献げております」と記されていました。

初めて出会う日本の少女たちと、話し合えるようになりたい。そして、この地で何かをなしえたいと願われたのです。もちろん、少女たちは英語を話すことができず、宣教師たちは十分に日本語を話せませんでしたから、最初は大変だったと想像できます。けれども、日本の少女たちとの新しい出会いを喜び、彼女たちと親しい関係を作り上げていきたい、出会った少女たちのために何かをなしえたい、という宣教師の情熱と祈りが神戸女学院大学を生み出したと言えるでしょう。

神戸女学院では「愛神愛隣」を学院の永久標語としています。「愛神愛隣」は先ほどお読みいただいた聖書にある「神を愛しなさい」、「隣人を愛しなさい」という教えを基にして作られた言葉です。神の前にへりくだり、聖書に書かれた神の言葉に耳を傾け、あなたが出会う隣人のためにできることをしなさい、という意味があります。タルカットとダッドレーの両宣教師は、愛神愛隣という言葉どおり、新たに出会った隣人、つまり日本の少女たちのためにこの学校を創られたのです。

新入生の皆さんも、この大学で学んで大きく成長したい、自分の視野を広げたいと願って

おられることと思います。そんな皆さんに、私たちは自分が得てきた専門的な知識や技能、自主的に学ぶ楽しさを伝えたいと思っています。専門分野と異なる分野が繋がることで、専門の学びがさらに深まっていく喜びや感動を得てほしい、視野が広がって自分の見ている世界が広がることの喜びを知ってほしいと願っています。なぜなら私たち自身がその喜びや価値を知っているからです。私たちは自分たちが得たことを皆さんにも味わってほしい、皆さんと分かち合いたいと望んでいます。

さらに、神戸女学院を創った宣教師たちは新しい知識や技能を教えただけでなく、新しい生き方を女性たちに教えました。当時の日本社会においては女性が男性の後からうつむき加減に歩くことが美德とされていましたが、タルカット先生は、「目を上げ、背筋を伸ばし、前を見なさい」と教えました。古い習慣を打破し、自分で主体的に判断して行動に移す自主性と積極性を女性たちに促したのです。その言葉に多くの女性たちが勇気づけられ、社会で活躍をしました。今の時代においてもこの言葉は私たちの心に響くものがあります。

また、宣教師の言葉は私たちに多くの示唆を与えます。私たちが生きる世界は多くの問題を抱えています。何が正しいことで、何が真実であるかを見極め、自分で判断し、自らの意志で行動することが大事なのです。気がつくと大きな波に飲み込まれてしまう危険が至る所に潜んでいます。たとえば、現実にはウクライナでの戦火は止まず、それと関わる諸国の態度、特に核兵器という言葉には戦慄を覚えます。ただ世論に従うのではなく、主体的に生きる人間であることを目標とし、そのために学びを深めていただきたいと思います。

私たち教職員も新入生の皆さんと出会い、このキャンパスで同じ時を過ごすことを心より楽しみにしてきました。胸を踊らせてこの場に集まっておられる方々もいらっしゃれば、今は不安でいっぱいだという方もおられることでしょう。人それぞれのペースは異なっています。まずは焦らずにスタートしてください。教職員が皆さんをサポートするように努めてまいります。皆さんの先輩である在校生もきっと皆さんの力になってくれるでしょう。

新入生の皆さんの今日から始まる新しい歩みのうえに、また、それぞれのご家庭のうえに神様の祝福が豊かにありますようにと祈りつつ、「学長のことば」といたします。